

むささび

第24号

平成27年1月23日発行

JForest 北信州森林組合

〒383-0061 中野市大字壁田938-1

TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350

URL <http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>

E-mail musasabi@jforest-kitashinshu.or.jp



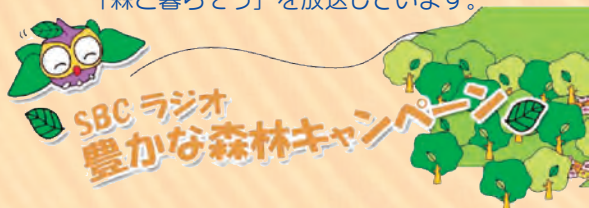
輸出だけではなく！：直江津港をハブとして国内外への船輸送

※12月に国内の合板工場向けに1,100m³を出荷



森林組合PR事業を全県で行っています。

SBC ラジオ「モーニングワイドラジオ JJ」
毎週月曜日、朝8時35分から40分まで
「森と暮らそう」を放送しています。



当組合放送予定 2月24日

主な内容

- 新春ごあいさつ 2
- 野沢温泉村で搬出間伐 3
- 中国視察 4
- 業務委員会安全パトロール 6
- 地域の山林紹介② 7
- 笹の葉の買取りについて 8

年頭のごあいさつ



北信州森林組合

代表理事組合長 中山 稿一



新年あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。日頃から組合事業につきましては、格別なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の景気動向を見ますと、アベノミクスによる景気は株価の高騰や円安により、輸出企業など一部にはその恩恵がありましたが、原材料が値上がり輸入によるデメリットなど全体としては斑模様になっているように思われます。特に地方については、実感として景気が良くなったとは思えない状況かと思えます。

昨年は2月の大雪による災害、全国的な豪雨災害、御嶽山の噴火、県の北部地震など大きな災害の年でもあり、厳しい環境の中で林業を取り巻く景況も伸び悩み、好転のきっかけが見えにくい状況でありました。

そうした中で、昨年は国産材自給率 29%にまで伸びましたが、国では平成 32 年までに国産材自給率 50%を打ち出しています。また、2020 年の東京オリンピックでは、可能な限り木材を使っていこうという機運があり注目していきたいと思えます。木造建築のなかで今後期待される需要が C L T (直交集成材) ではないかと思われます。欧州ではすでにマンションや中・大規模の商業施設や公共施設、一般住宅まで様々な建築物が建てられていて、幅や厚みの違う木片を有効活用できる特性があり、早急な技術確立に期待したいと思っています。長野県は人工林面積が全国第3位の森林県であり、森林資源は豊富でありますので、地元産材利用の一層の強化を図ってまいりたいと思えます。

また、昨年は低質材の販売需要が旺盛で、3年前では捨てていた D 材も木質バイオマス発電用として利用され、底値は上昇傾向にあります。C 材についても中国へ輸出し、直江津港より 1 万 m³ の出荷になりましたが、今年も拡大に向けて取り組みたいと思えます。B 材や優良材の価格については厳しい面もありましたが、次第に春も見えてきそうであります。

組合では今年度も重点的に境界明確化事業を推進してまいりました。この事業を行うことにより、後世に土地の面積や場所が明確な資料としてデータ化され、組合で永久に保管され個人情報保護されます。また、本人の情報については、必要に応じて何時でも対応が可能です。個人での管理が難しい今日、団地化を図り対応することが賢明と思えますので、計画的に皆さんの協力を頂いて、併せて森林経営計画の樹立を進めてまいります。

ねんりんの運営については、農林産物直売所や、たいへんきれいな清潔感のあるトイレも設置され、野沢温泉村の協力をお願いし、道の駅として進めていけるように、組合支所を併合した無休営業に向けて検討中であります。国道 117 号を通過の際はどうぞお立ち寄りください。

昨年は大雪がありまして各地で除雪が大変でありましたが、当組合受注の路線や駐車場につきましては、除雪体制には万全を期して対応してまいります。

今年も役職員一同、皆様のご支援ご協力を頂き各事業を推進し、組合員の負託に応えるべく頑張る決意であります。年頭に当り皆様のご多幸を心より祈念申し上げ新年の挨拶といたします。



野沢温泉村の木材生産量が 2,000m³を超えました!

北部地区はトビグサレが少なく地元製材所にも販売できました。

搬出間伐事業が組合事業の主力となり、管内全域で実施されています。

その中で、今年度は野沢温泉村の虫生地区と東大滝地区での受託事業、さらに七ヶ巻地区での県行造林の生産請負事業による搬出間伐において、年間生産量が二千m³を超えました。

三年前から始まった森林経営計画が本格的に運用されるようになり、野沢温泉村でも搬出間伐が主力となっています。

今回の間伐では、生産された木材を

七ヶ巻地区で借りた中間土場に運び、そこからA材は地域の製材所に、B材は県外の合板工場に、そしてC材は中国向けに大型トレーラー等に積込んで販売しました。

野沢温泉村の北部地区のスギ材は、豪雪により曲りが多いので、曲りの程度により合板や中国向けとなります。しかし、意外とトビグサレが少ないため、直造材ができた太物については、地域の製材所に販売することができました。



列状間伐の搬出列の状況



販売先別に縦積された中間土場の状況

野沢温泉村木材生産量

主間別	年														備考
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
主伐	0	0	0	0	11	159	278	0	0	192	0	0	0	0	
間伐	0	0	0	0	0	115	0	0	0	0	0	0	0	469	県営林等の生産請負
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	476	485	1,661	私有林の受託事業
合計	0	0	0	0	11	274	278	0	0	192	0	476	485	2,130	

年間生産量は2,130m³になります。

● 今回の搬出間伐の工程です!



フォワーダで小運搬します。



プロセッサで造材します。



スイングヤードで集材します。

中国市場を現地調査視察しました。

…………… 円安により低質材価格が変動し需要先が増加 ……………

搬出間伐事業が組合事業の主力となり、生産される間伐材の量も、大きく増加しています。以前は、製材所に販売する建築用材が生産できる現場を中心に事業展開してきました。しかし、現在は管内全市町村で計画を立てて事業を行つていきますので、建築用材が搬出材に占める割合は3割弱となっています。

当管内での間伐材の主力は合板用材ですが、それよりも質の落ちる材についても大量に生産されています。かつては、製紙用チップ材がオガ粉用材として、1トンあたり3,000円〜4,000円程度でしか販売できませんでした。昨年頃から続く円安の影響もあり、中国向けの販売など新たな大口需要が生まれています。これは販売価格にも影響し、中国向け価格がバイオマス用材やオガ粉用材の価格を押し上げることに繋がっています。

こうした中で、組合では中国市場の調査を目的として、9月に現地視察を行いました。この視察報告について、ラジオや新聞、林業関係書籍で取り上げられるなど、たいへん注目されていますので、今回は抜粋してお知らせします。

※詳しくは組合ホームページに掲載されていますので、ご覧下さい。検索サイトで北信州森林組合と検索してください。スマートフォンにも対応しています。



太倉港に桟積された当組合や栄村森林組合、北信木材センターから出荷された木材。



上海市北側の太倉市にある太倉港。直江津港から輸出した木材はこの港に荷下ろしされます。



上海港から製材所に到着したトレーラー。道路も広いので、このような積み方でも違法ではないようです。



上海港でのトレーラーへの積み込み。青森県と九州から輸出された木材が桟積されていました。

近代的な街とは正反対の製材所

視察先の製材工場では、九州から輸出されたスギを製材していました。製材工場には帯鋸が4基ありましたが、送材車など無く、丸太を人間が持つて人力で材を送るなどし、全てを人力で行っていました。製材機には集塵装置もなく、足元にオガ粉が溜まると、それを片付ける専用の者がいて片付けを始めます。これを交互に行っていました。

トレーラー1台分の丸太を1日で製材し、月間の加工量は1,000m³以上で、丸太の歩留まりは100%以上になるとのことです。

中国では戸建て住宅はなく、鉄筋コンクリート造の集合住宅ばかりです。そして、売られている各部屋は、内装をしてない状態で売られています。内装は購入者が行うのが通常だそうです。このため、木材も下地材や板材を製材しています。また、背板も使える部分を切つて短板として売られます。

オガ粉も最後に余った端材も全て売り先があるとのことでした。港や道端には、さらにゴミのように落ちている端材を拾集める者もいました。木の価値は昭和30年代までの日本に近いのかもしれない。



人力で送材が行われています！



製材品の結束も人力です。



背板なども丸鋸で単材に裁断しています。



人力で送材しても、立派な製品になります。



オガ粉片付けも人力です。これも全部売り物です。



荷台に積まれた端材も売り物です。

“今年も安全パトロール実施しました”

業務委員会

今年も業務委員と組合長・副組合長による安全パトロールを実施しました。

六月から十一月まで毎月一回つづつ行い、三人から四人が順番で出席し、各現場を見て回りました。

昨年からはヘルメットから安全靴まで、ヨロツパの安全基準をクリアした物を貸与し、危険への物理的な要因を排除しています。

そのため、チェー

ンソーや刈払機による切創は全くなきなりました。しかし、パトロールでは不意

な作業動作が見られ委員から指摘を受ける場面もありました。

今年度全体では、安全装備の着用状況、伐倒作業時の警笛合図など、昨年に比べて様々な面で改善ができました。

しかし、軽傷の労災事故もありましたので今後も引き続き、労働災害防止のため、役員一丸となって、ゼロ災を目指してまいります。



6月25日パトロール



7月23日パトロール



8月27日パトロール



9月24日パトロール



10月22日パトロール

今年の労働災害

- 5月 9日 伐倒時に枝が落下して脳震盪
- 6月12日 マダニに噛まれる
- 6月13日 ハチに刺される
- 7月30日 ハチに刺される
- 8月18日 伐倒後に伐倒木が足に当り打撲
- 8月28日 斜面の刈払いで滑り落ち捻挫
- 9月26日 ハチに刺される
- 11月19日 倒木処理中に灌木が跳ねて顎を裂傷

チェーンソーに対する防護ズボンの効果



今年2件ありました。防護ズボンのおかげでケガをしませんでした。



11月12日パトロール

- 6月25日 松くい虫防除、搬出間伐 2現場
- 7月23日 保育間伐、水路刈払 2現場
- 8月27日 搬出間伐 1現場
- 9月24日 作業道開設、緩衝帯整備 2現場
- 10月22日 本数調整伐、搬出間伐 2現場
- 11月12日 搬出間伐、高圧線下伐採 2現場

地域の山林紹介②
株式会社 佐野共有林(山ノ内町)

(株) 佐野共有林は、山ノ内町南部の佐野・角間地区の旧入会山六百ヘクタールほどを所有し森林経営をしています。

歴史は古く、天保二年(一八三二年)にその地を治めていた松代藩の指示により、入会山を割山としたことが始まりです。その後、明治五年の町村制度の施行により公有林化。しかし、乱伐による荒廃が問題となり、管理団体として「佐野林野保護組合」が組織されました。

時代は変わり大正十二年、積極的に山林の活用をする団体として、「佐野施業森林組合」が設立。そして、昭和四十年に現在の組織の原形となる「佐野共有林組合」、平成三年には経営スピードを高めるため「株式会社 佐野共有林」に改組されました。

現在も直営林経営のほか、共有林組合当時に地区在住者に貸し付けた割山の管理を行うなど、地域山林運営のリーダーとして活動しています。



戦時中の佐野山

第13回 北信州森林組合通常総代会
搬出材積の部において表彰されました。

共同事業の推進

(株) 佐野共有林は当組合の組合員でもあり、前身の山ノ内町森林組合当時から深いつながりを持っています。時代即した積極的な林業活動をするべく、平成十八年度より「共同事業」という形で双方の協力による総合的な森林整備活動を開始しました。

平成二十六年現在で境界明確化(貸付地境界のデータ化)を所有面積の七割にあたる四五〇ヘクタール、間伐を主とした森林施業二〇ヘクタールを実施し、木材生産量は約一立方メートルとなっています。

この取組みは、現在当組合が推進している森林施業集約化につながり、大きな成果をあげた事例として、全国的にも注目されています。



受賞式の様子



間伐後の所有林

今後の展開

森林林業を取り巻く状況はかつてないスピードで変化し続けています。また、(株) 佐野共有林には、二〇五二年に迫っている貸付地の返還期限後の管理という課題もあります。明治期に経験した林地荒廃の教訓を生かし、環境保全を確保しながらの循環型林業経営が期待されることから、今後も強固な協力関係を続けていきたいと考えています。



(赤線)は境界明確化成果

SBCテレビ“エコロジー最前線”当組合が紹介されました。

全国でも先進的に取組んでいる

『デジタル森林管理』

当組合では、平成十七年からGPS受信機やデジタルコンパスなどのデジタル機器を導入し、座標情報を管理する森林境界明確化事業を行っています。

十月二十五日の放送では、この森林境界明確化の境界立会いから、立会後の事務処理、現地測量、座標データを森林地理情報システムへの取り込みまで、一連の業務を紹介していただきました。

若い職員達にとつても、こうして皆さんに注目されるのが、たいへん励みになり、より良い仕事ができると思います。

今回は山ノ内町の菅地区の境界立会を取材されましたが、立会の参加者の皆様には、取材に協力いただきまして、たいへんありがとうございました。

森林境界明確化事業は、管内を長期の計画を立てて進めています。



境界の立ち会い説明



デジタル機器による測量で座標値でデータを管理する



最先端技術で進める森林管理

～北信州森林組合～

笹の葉の買取りについて

小林多男商店と仲介します。

長野市にある小林多男商店では、笹の葉やクルミなどの天産物を専門に取り扱っています。笹の葉などは、青森県などから取り寄せなどしているそうです。

今回、組合員の中で笹の葉を採取していただける人はいないかということで、組合に問い合わせがありました。

採取の仕方は、6月から7月にかけて、新葉だけを摘んで50枚を一束として輪ゴムで束ねて出荷していただければ良いそうです。青森県では1人で1日10,000枚も摘む方もいるそうです。

組合では、現在、小林多男商店から50枚一束で八十円での買取価格が提示されています。手数料を5%として、組合員から七十六円で買取したいと考えています。

採取してから2日以内に納品するか、冷凍しなければなりませんので、希望される方がどの程度おられるのかを、調べたうえで事業化したいと考えています。

希望される方は、ぜひ組合に連絡してください。

なお、詳しくは広報誌に挿入であるチラシをご覧ください。

人事異動

採用(十二月一日付)

業務課庶務担当

パート職員 中沢千恵子

異動(一月五日付)

利用事業室付

技能職員 西川幹雄



本所・(中野・豊田担当) 〒383-0061 中野市大字壁田 938 番地 1
TEL 0269-38-0371(代) FAX 0269-23-5350
利用事業室・飯山支所 〒389-2255 飯山市大字静間 383 番地 14
TEL 0269-62-8111 FAX 0269-62-8111
山ノ内支所 〒381-0405 山ノ内町大字夜間瀬 6819-1
TEL 0269-33-8665 FAX 0269-33-8678
木島平支所 〒389-2302 木島平村大字往郷 973-1
TEL 0269-82-3123 FAX 0269-82-3123
野沢温泉支所 〒389-2592 野沢温泉村大字豊郷 9817
TEL 0269-67-0454 FAX 0269-85-3803
ねんりん 〒389-2613 野沢温泉村大字虫生 2383-1
TEL 0269-85-4441 FAX 0269-85-4441
直売所 TEL 0269-85-4141 FAX 0269-85-4141

編集後記

宮崎県に年間 50 万 m³ の原木を消費する製材工場ができました。木材を大規模消費する工場が多くなり、かつての丸太は商品でしたが、今は原材料としての位置付けになっています。

木材を生産する側も、大量に生産できる事業体でなければ、木材生産を続けられなくなっています。ますます、森林組合が頑張らなければなりません。最新情報を皆さんにお知らせしますので、来年度もよろしくお願いたします。